

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第25号 平成28年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>平成28年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第26号 垂水市奨学資金条例の一部を改正する条例案についての市長への意見申出について</p>	<p>垂水市奨学資金条例の一部を改正する条例案について、教育長の臨時代理により差し支えない旨意見をしたこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第27号 平成28年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について</p>	<p>平成28年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第38号 平成29年度垂水市一般会計当初予算要求について</p>	<p>平成29年度当初予算案の作成について、教育委員会の意見を申し出ようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

平成28年度第9回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成28年12月12日（月）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時22分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 長濱 重光</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成28年度第9回教育委員会定例会を開会した。
議案第18号は非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成28年度第8回定例会会議録及び第1回臨時会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第25号 平成28年度垂水市一般会計補正予算（第7号）案についての市長への
意見申出について

報告第26号 垂水市奨学資金条例の一部を改正する条例案についての市長への意
見申出について

報告第27号 平成28年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について

議案第18号 平成29年度垂水市一般会計当初予算要求について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第 25 号
教育総務課長	平成 28 年度垂水市一般会計補正予算（第 7 号）案についての市長への意見申出について
	平成 28 年度垂水市一般会計補正予算（第 7 号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。 （質疑なし）
	報告第 26 号
学校教育課長	垂水市奨学資金条例の一部を改正する条例案についての市長への意見申出について
野村委員	垂水市奨学資金条例の一部を改正する条例案について、教育長の臨時代理により差し支えない旨意見を述べたこと、及びその内容について報告した。
	県下市町村奨学資金の金額の状況は、特に目立ってここはこうだとか、比べて垂水市はどうだとか、特徴的なことはないか。
学校教育課長	19 市の状況を調査した結果、本市で取り上げていた 10, 000 円という金額は、高校生で比較すると下位である。これを 15, 000 円に上げると、ほぼ平均、もしくは平均より高くなっていく。大学生の 30, 000 円になると、中位になっていく。
田原委員	16 条に、奨学生の学業成績及び生活状況調査とあるが、大学生で留年したりとか成績が悪かったりして、そういうときは停止になるのか。
学校教育課長	毎年度初めに、その大学、高校に在学しているか調査を行う。その場合に、留年等があった場合、その期間年数は、借りられないことになっている。
中谷委員	やはりその年代の子供を持っている親としては、とても有難い話。皆さんに公正に行き渡るようにお知らせをされて、資格のある人が給付をされたら、とてもありがたい。
学校教育課長	今、委員からご指摘があったように、できるだけ多くの方にこの制度を理解していただいて、活用していただきたいと思う。給付型にしなかったのは、現在の奨学金で借りる方すべてにその資格を有していただく。その上で、帰ってきていただいた方については、免除をしていくという考え方で、多くの方が借りて、多くの方が帰ってくる動機付けをしたいというのが、この制度の趣旨だ。今期の議会を通ったら、これまで以上に周知の場を設けながら、広くご理解をいただいた上で、ご活用願いたい。
教育長	今政府が考えているのは、大学生 2 万人を対象にして、給付型を導入しようとしている。全国で公立、私立が 5, 000 校あるが、5, 000 校の中で、

	<p>1校から1人は必ず入れる。ところがその1人を高校生、大学に行く生徒をどのように選ぶのか、基準が難しい。ある高校では、1人にプラス2、3人該当する生徒がいるとなるとなお難しい。そういうことで、本市はこういうスタイルを取ったところだ。</p>
学校教育課長	<p>報告第27号 平成28年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について 平成28年度垂水市特別支援教育支援員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告した。</p>
野村委員	<p>11月16日以前は11人であっていた。不足の状況か。仕事の内容は、11人で可能なのか。13人はどうしても必要なのか。</p>
学校教育課長	<p>年度はじめに、予算は13人を確保している。各学校から希望が上がってきたものに優先順位をつけて11人の配置をした。後2人は人材がなかったので、優先順位をつけた。今回あと1人委嘱することで12人体制とする。実際には、もう1人入ってきてくだされば、中央中の学習支援にも配置したいが、なかなかそこに見合うだけの人材がいらっしゃらない。次年度に向けては、各学校から希望をいただいて、優先順位を決める中で、配置を進めていく。予算上は来年度も13人の枠は確保していきたい。そして手厚く特別支援教育に当たっていきたい。</p>
	<p>議案第18号 平成29年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開)</p>
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「小中合同音楽会について」 11月18日の小中合同音楽会に参加した。56回目という大変な歴史を持った音楽発表会だった。牛根小に始まった発表だったが、垂水小と中央中は合唱の他に金管バンドと吹奏楽を入れて、ステージを華やかに飾ってくれた。各学校子供達は、皆晴れの舞台上懸命に堂々としていた。それまでの練習も大変だっただろうけれども、その練習の成果が十二分に発揮できたのではと思われた。</p>

大規模の学校はもちろんだが、やはり特に感銘を受けたのは、全校生徒十数名という5校の発表だった。1年生から6年生までしっかりまとまった心の絆というものを感じた。

また、この音楽会の意義は、最後のステージを飾った全体合唱の「翼をください」に集約されていると思われた。リフレインの「この大空に翼を広げ 飛んで行きたいよ 悲しみのない 自由な空へ 翼はためかせ 行きたい」を、子供達は澄んだ瞳で遠くを見上げて力いっぱい唱った。その姿は、一人一人の輝かしい未来に向けての誓いを歌っているような、また、たくましい若者に成長する将来を象徴しているのだと強く感じる事ができた。

2. 「市人権教育研修会について」

12月2日の市人権教育研修会に出席した。「考えてみませんか？人権のこと」と題して、山下紀弘先生が講演をされた。人の価値観は様々だ。自分の考えと他の人の考えを尊重することが大切だ。という導入で始まった。そして、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが大事であるとして、人権尊重の理念を家庭や学校や社会生活の中に浸透させることが人権教育の基本的な考え方になると説かれた。

また一つは、人権問題は誰の問題か。また、このことが表面化し話題になるのはどんな時かと具体的に触れられ、様々な形で起こる人権問題に対して、正しく理解し、正しく認識することがまず大事であることを強調された。

さらに、人権に係わる諸々の出来事は、必ず私達の日常生活の中に存在するものだと、私達は、いつも自分の発した言葉で人を傷つけていないか、相手を思いやり元気づけるような言葉掛けをしているか等々心掛けるべきであると指摘され、このことが、みんなが明るく楽しく元気に過ごせる家庭生活や学校生活や地域社会づくりの基礎になるということであり、これらのことがうまく融合し、私達の日常生活のベースを作ることで、人権問題解決の大きな推進力になるという結論であった。

田原委員

1. 「学校経営説明会について」

11月30日の学校経営説明会は、各学校の割り当て時間が少し延びたことで、各委員の質問時間に余裕があった。各学校のいい面と課題になっている部分について質問した。いい面については評価的な視点で、課題についてはこれまでどのような手立てを講じて課題克服に向けて努力されているのかを質問した。

全体的には、どの学校の校長先生も優秀で学校経営に熱意と意欲をもって取り組んでくださっていることが分かった。

ただし、学力向上に向けての取組においては、なりふり構わず、ありとあらゆる方法で全職員を動かし、家庭や地域を巻き込んで、年間を通して徹底しておられる校長先生が成果をあげているようだ。要は校長先生と全職員が学力向上への思いや取組をしっかりと共有し、日々確実に実践していくかであろうと感じた。

中谷委員

1. 「終原公民館文化祭について」

11月19、20日は、終原公民館の文化祭だった。新年度から主事が替わり、公民館活動が具体化された。各部門部門に分かれて、一人一人が意見、考えを述べられるような体制作りがなされている。一つの行事をするにしても前準備から話し合う形式をたくさん設け、個人個人が責任を持って当たっている。これからの公民館活動が楽しみだ。

2. 「若い世代への後継について」

11月23日は、自坊の一番大事な仏事を勤めた。私は地域に住みながら、色々な事を若い世代にどう繋げていくかが課題だと常に思っている。

一年間に色々なご縁をチャンスだと捉えて、若い人とお茶を飲み、飲ん方をして、出逢う事の努力をする。

今では、若いママ達が学校のPTAの空き時間に、又、仕事の休みの日に訪ねてくるようになった。私は、そのような中で、垂水市の子供達のことの情報を得ている。

3. 「井ロスズ子絵画展について」

12月4日は、終原在中の女流画家 井ロスズ子さんの絵画展、お祝いの会があった。レセプションに終原小学校の児童も出席させていただいて、本当に良かったと思う。

井ロスさんのお宅を訪問させていただくと、ほのぼのとした中にも物事にきちんと取り組まれる姿勢が伝わってくる。絵にもそれが表れていて、私達に発信されておられると思う。益々、お元気にご活躍されますことを願っているところである。

4. 「学校応援団活動について」

本日、水之上、終原線のバスに学校応援団として乗車した。バス停まで親に送ってきってもらってバスに乗る生徒がいて、保護者の車を3台見かけた。バスの中は、各々おしゃべりをして、子供達はとても落ち着いていた。運転手さんは安全運転をしてくださっている。有難いことである。

葛迫委員

1. 「地区指定研究公開（垂水小）について」

11月29日の地区指定研究公開（垂水小）は、算数科目の指導の中で、すべての児童が「分かる喜び」、「出来る楽しさ」を実感できる授業作りが研究主題で、たとえば、1年2組の場合「14-6」の計算の仕方を考える場面で、「10」という数字をひとつのまとまりと考え、「10」と「いくつ」ということを考えさせ、紐解いていく。そして、それを説明させる授業に、1年生なのにも思った。なかなか飲み込めないのではと思ったが、「できたことの喜び」がもっと増えていくと、子供達の能力向上に繋がっていくのではと感心することだった。

2. 「井ロスズ子絵画展開場式について」

12月4日この日は様々な場所でイベントが繰り広げられる中、井ロスズ子絵画展開場式は、多くの行政機関の関係者、教育関係者、市民の皆様に

	<p>来場していただいた。感謝の気持ちだった。柗原小学校の子供達13名が駆けつけてくれたことに井口スズ子本人も感無量といったところだった。</p> <p>20年にわたる画業人生を綴った展覧会だったが、年齢と共に力強さが増してくる筆捌きが一目でわかる展示となっていたことで、観覧者の驚きに本人は喜びを隠せなかったようだ。昨日で展覧会は終わったが、画集出版の影響もあって京都や神戸、佐賀など遠方からの来場者も目についた。</p> <p>1. 「子ども会大会及び綱引き大会について」</p> <p>昨日、第23回子ども会大会と第17回綱引き大会が実施された。児童、保護者の参加があって大盛況だった。4年後の国体の公開競技は綱引き大会が行われるが、県の綱引き連盟のご配慮により、京セラのチームに来ていただき、デモンストレーションをしていただいた。2回程、京セラの大人6名と子供達20名で対戦をしてもらった。白熱した戦いで、子供達も一生懸命、応援も一生懸命で、最後は勝たせていただいた。2回とも子供達が勝って大喜びでした。こういう機会を通して、4年後の国体に向けて、機運を高めていきたい。</p> <p>2. 「夢教室について」</p> <p>1月31日に夢教室を開催する。フェンシングの太田雄貴選手が社会教育課の尽力で来てくれることになった。</p> <p>ただ、試合は行わないで、45分くらい講演をいただいて、子供達の対戦を通して指導していただくことを考えている。これらの取組を通して機運を高めていきたい。</p> <p>3. 「学校経営報告会について」</p> <p>学校経営報告会について、先程委員からも報告があった。お褒めの言葉、激励の言葉があったが、12月5日の校長研修会で、11月に学校経営報告会をなぜするかという意味と、ご指摘いただいた課題を3月までに真摯に受け止めて取り組んでくださいと話をした。11月にするというのは、前半を振り返り、残りの4ヶ月間に向けてどう取り組んでいくか、そして各学校の当初の目標をどうクリアしていくかなどの意味合いについて説明をして学校経営の改善を促したところだ。</p>
<p>教育長</p>	
<p>教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長</p>	<p>11月18日から12月12日までの主な行事等について報告。併せて、1月12日までの予定についてお知らせした。</p>
<p>6 閉 会</p>	